

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.6.26-7.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

4:1 ペテロとヨハネが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちが二人のところにやって来た。

4:2 彼らは、二人が民を教え、イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣伝していることに苛立ち、

4:3 二人に手をかけて捕らえた。そして、翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。

4:4 しかし、話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどになった。

4:5 翌日、民の指導者たち、長老たち、律法学者たちは、エルサレムに集まった。

4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレクサンドロと、大祭司の一族もみな出席した。

4:7 彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか」と尋問した。

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

4:9 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。

4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てら

れた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

救いのみわざが進むと必ず敵対する人が現れます。自分にも変化が及ぶのを嫌がるからです。そこで私たちが本当に神様を信じて生きようとしているのか、それとも自分のために生きようとしているのかを試されることとなります。ペテロとヨハネは信仰を貫きました。

迫害があるのにさらに5千人が信じたということは重要なことを教えます。困難があると知っていても神を信じる人は多いのです。ペテロたちのように毅然として神に従いつつ、永遠の幸いに確信を持っていけばよいのです。本当の信仰を獲得できるでしょう。

ペテロたちは取り調べさえも伝道のチャンスと考えました。反対者が何が攻撃してきたら、それはチャンスなのです。もちろん攻撃し返す必要はありません。伝道のために愛を持って接することになるでしょう。結果的にはそれが平和な解決となるでしょう。それ以上に神の国が広がるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 火曜

使徒



4:13 彼らはペテロとヨハネの大胆さを見、また二人が無学な普通の人であるのを知って驚いた。また、二人がイエスとともにいたのだということも分かってきた。

4:14 そして、癒やされた人が二人と一緒に立っているのを見ては、返すことばもなかった。

4:15 彼らは二人に議場の外に出るように命じ、協議して言った。

4:16 「あの者たちをどうしようか。あの者たちによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムのすべての住民に知れ渡っていて、われわれはそれを否定しようもない。」

4:17 しかし、これ以上民の間に広まらないように、今後だれにもこの名によって語ってはならない、と彼らを脅しておこう。」

4:18 そこで、彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。

4:19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。」

4:20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

4:21 そこで彼らは、二人をさらに脅したうえで釈放した。それは、皆の者がこの出来事のゆえに神をあがめていたので、人々の手前、二人を罰する術がなかったからである。

4:22 このしるしによって癒やされた人は、四十歳を過ぎていた。

議会は保身のためにペテロたちを捕らえましたが、保身のために罰することができませんでした。「人

を恐れる者はわなにかかる」と箴言にあります。人は神の前には何ほどの力もないのです。

またふたりが無学であることで驚いたとありますが、決して無知であったのではありません。イエス様がメシアであることを論証するのに十分な知識と知恵があったのです。主の使命によって召されたならば、人間の尺度に縛られる必要はありません。ヤコブ書にあるように、謙遜に「欠けた」ところを認めて、大胆に「神に求めれば」よいのです。

もしも私たちが信仰のゆえに何らかの攻撃を受けたなら、19節のことはこそ信仰の宣言となるでしょう。自分で戦わずとも神様が戦ってください。このときは「神をあがめていた」みなの方を用いて主が守ってくださいました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 水曜

使徒

4:23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。

4:24 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。

4:25 あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。

4:26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と、主に油注がれた者に対して。』

4:27 事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、

4:28 あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。

4:29 主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。

4:30 また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもべイエスの名によって、癒やしとしるしと不思議を行わせてください。」

4:31 彼らが祈り終えると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。

4:32 さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているもの



を自分のものと言わず、すべてを共有していた。

4:33 使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。

4:34 彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、

4:35 使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ（訳すと、慰めの子）と呼ばれていたヨセフも、

4:37 所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

教会に困難が起きたときの対処法がここにあります。ペテロとヨハネは自分たちが受けた困難についてみなに報告しました。その内容は自分たちの苦労話よりも、みなのために「祭司長や長老たちが」言ったことが中心でした。

それは「みんなで苦労を共にしよう」というような愛と一致の雰囲気があったからでしょう。神の視点に欠ける群れは、問題が起きると誰かの責任にしたり、批判が生まれますが、教会はむしろ一致するようでありたいものです。

この時教会は心を一つにしましたが、それは感情的なものというよりも、神様への信仰による一致でした。25節には神の偉大なることへの信仰、さらに聖書理解、そして聖書から出来事を（27節）見る神の視点の一致です。

さらに「みことばを大胆に語らせてください」「わざを行わせてください」という献身と前進の一致です。ですから32節から33節のような麗しい共同体ができたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 木曜

使徒



5:1 ところが、アナニアという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、
5:2 妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた。
5:3 すると、ペテロは言った。「アナニア。なぜあなたはサタンに心を奪われて聖霊を欺き、地所の代金の一部を自分のために取っておいたのか。
5:4 売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。どうして、このようなことを企んだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」
5:5 このことばを聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。
5:6 若者たちは立ち上がって彼のからだを包み、運び出して葬った。
5:7 さて、三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。
5:8 ペテロは彼女に言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのか。私に言いなさい。」彼女は「はい、その値段です」と言った。
5:9 そこでペテロは彼女に言った。「なぜあなたがたは、心を合わせて主の御霊を試みたのか。見なさい。あなたの夫を葬った人たちの足が戸口まで来ている。彼らがあなたを運び出すことになる。」
5:10 すると、即座に彼女はペテロの足もとに倒れて、息絶えた。入って来た若者たちは、彼女が死んでいるのを見て運び出し、夫のそ

ばに葬った。
5:11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。

神の教会内部に全く問題がなかったかというそうではなく、聖書はむしろ問題点を隠しません。アナニヤとサツピラ夫妻は罪を犯し、そして死んだのです。あまりにも厳しすぎると思われるでしょう。

献金を十分にしないときばかれるのでしょうか。そうではなく、自分のものを残しておくことに関しては4節にあるように、ペテロも認めています。問題はすべてをささげたかのように見せかけたことです。しかしそれで殺されるのでしょうか。あまりにも厳しい感じがします。

これは神のさばきのような印象を受けるかもしれませんが、聖書にはさばきという明言はありません。ただ「すべての人に、非常な恐れが生じた」とだけ記してあります。彼らが死んだ原因ははっきりとは分からなかったでしょう。しかし、神様はそのような出来事を通して、人々に正直であることを教えたのです。

今日も様々な出来事があり、解釈によっては「あの人は神にさばかれたのだ」というような発言を聞くかもしれませんが、早まった言い方はしないことです。ただ、出来事を通して自分自身が何を学ぶかが大切です。謙遜に神を敬いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 金曜

使徒



5:12 さて、使徒たちの手により、多くのしるしと不思議が人々の間で行われた。皆は心一つにしてソロモンの回廊にいた。

5:13 ほかの人たちはだれもあえて彼らの仲間に加わろうとはしなかったが、民は彼らを尊敬していた。

5:14 そして、主を信じる者たちはますます増え、男も女も大勢になった。

5:15 そしてついには、病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせて、ペテロが通りかかるときには、せめてその影だけでも、病人のだれかにかかるようにするほどになった。

5:16 また、エルサレム付近の町々から大勢の人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人々を連れて集まって来た。その人々はみな癒やされた。

5:17 そこで、大祭司とその仲間たち、すなわちサドカイ派の者たちはみな、ねたみに燃えて立ち上がり、

5:18 使徒たちに手をかけて捕らえ、彼らを公の留置場に入れた。

5:19 ところが、夜、主の使いが牢の戸を開け、彼らを連れ出し、

5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこのいのちのことばをすべて語りなさい」と言った。

5:21 彼らはこれを聞くと、夜明けごろ宮に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間たちは集まって、最高法院、すなわちイスラエルの子らの全長老会を召集し、使徒たちを引き出して来させるために、人を牢獄に遣わした。

5:22 ところが、下役たちが行ってみると、牢

の中に彼らはいなかった。それで引き返して、こう報告した。

5:23 「牢獄は完全に鍵がかかっていて、番人たちが戸口に立っていました。しかし、開けてみると、中にはだれもいませんでした。」

5:24 宮の守衛長や祭司長たちは、このことばを聞くと、いったいどうなることかと、使徒たちのことで当惑した。

5:25 そこへ、ある人がやって来て、「ご覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、宮の中に立って人々を教えています」と告げた。

5:26 そこで、宮の守衛長は下役たちと一緒に出て行き、使徒たちを連れて来たが、手荒なことはしなかった。人々に石で打たれるのを恐れたのである。

2章では「好意を持たれた」とありますが、ここではさらに「尊敬」されていたことがわかります。クリスチャン全員がどのように見られているかが大切です。当然、見かけだけの問題ではなく、人柄です。救われてからの成長やきよめが大切です。それによって、宣教を進展させるか妨げるかが決まるのです。

それに主の恵みのわざが加わるとき教会は大きく前進します。すなわち宣教が進みます。ねたみに燃えた指導者たちがいたように、世の中には敵対する人もあるでしょうが、使命を持って生きる人は守られます。今も当時と同じ神様が働いておられるからです。ただし、自分が守られるために使命を果たすのではなく、使命のために守られるのです。

主に支えられ守られるたびに、「いのちのことばを、ことごとく語りなさい」という主の励ましのことばを聞きたいものです。そしてそれぞれに与えられた場で、与えられた賜物を用いて、与え

られた愛の力で宣べ伝えたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 土曜

使徒



5:27 彼らが使徒たちを連れて来て最高法院の中に立たせると、大祭司は使徒たちを尋問した。

5:28 「あの名によって教えるはならないと厳しく命じておいたではないか。それなのに、何ということだ。おまえたちはエルサレム中に自分たちの教えを広めてしまった。そして、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしている。」

5:29 しかし、ペテロと使徒たちは答えた。

「人に従うより、神に従うべきです。」

5:30 私たちの父祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを、よみがえらせました。

5:31 神は、イスラエルを悔い改めさせ、罪の赦しを与えるために、このイエスを導き手、また救い主として、ご自分の右に上げられました。

5:32 私たちはこれらのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊も証人です。」

5:33 これを聞いて、彼らは怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えた。

5:34 ところが、民全体に尊敬されている律法の教師で、ガマリエルというパリサイ人が議場に立ち、使徒たちをしばらく外に出すように命じ、

5:35 それから議員たちに向かってこう言った。「イスラエルの皆さん、この者たちをどう扱うか、よく気をつけてください。」

5:36 先ごろテウダが立ち上がって、自分を何か偉いもののように言い、彼に従った男の数が四百人ほどになりました。しかし彼は殺され、従った者たちはみな散らされて、跡形もなく

なりました。

5:37 彼の後、住民登録の時に、ガリラヤ人のユダが立ち上がり、民をそそのかして反乱を起こしましたが、彼も滅び、彼に従った者たちもみな散らされてしまいました。

5:38 そこで今、私はあなたがたに申し上げたい。この者たちから手を引き、放っておきなさい。もしその計画や行動が人間から出たものなら、自滅するでしょう。

5:39 しかし、もしそれが神から出たものなら、彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすると、あなたがたは神に敵対する者になってしまいます。」議員たちは彼の意見に従い、

5:40 使徒たちを呼び入れて、むちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと命じたうえで、釈放した。

5:41 使徒たちは、御名のために辱められるに値する者とされたことを喜びながら、最高法院から出て行った。

5:42 そして毎日、宮や家々でイエスがキリストであると教え、宣傳伝えることをやめなかった。

大祭司など権威者たちは、伝道を妨げようとし、またイエス様を処刑した責任を逃れようとしています。これに対してペテロたちは「人に従うよりも神に従うべき」とであると、はっきりと意思表示しました。

宣教についての私たちの態度はどうであるかが問われます。誰でも伝道しないよりもするほうが良いことは知っています。しかし、今は時が悪いからと、状況や忙しさを理由にして、また時には大祭司のように自分を守るために伝道しないということがあるのではないのでしょうか。

もしもこれまでのクリスチャン達が自分や生活

を守ることを優先にしていたら、私たちに福音は届きませんでした。

神様はペテロたちを守るために、有力な議員であるガマリエルを用いてくださいました。主のためにリスクを負って、主によって守っていただけるような、クリスチャンでありたいものです。またそのような経験をしたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 そのころ、弟子の数が増えるにつれて、ギリシア語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情が出た。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからである。

6:2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことは後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、

6:4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」

6:5 この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、バルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、

6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。

6:7 こうして、神のことはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。また、祭司たちが大勢、次々と信仰に入った。

教会は様々なサタンから攻撃を受けます。教会の誕生以来、外からの迫害がありました。またアナニアとサツピラのように不信仰な者たちによる妨げもあり、神様は愛と権威によって教会を守ってくださったことがわかります。

そしてここに来て教会は、その内側すなわち信仰者たちの関係が悪くなるような出来事で、サタンの

攻撃を受けたのです。食事など教会の働きは必ずしも完全にはできないのは当たり前ですが、それに対してどのように対処するかが重要です。

ここで不利益を被ったのは、ギリシャ語を話すやもめの女性たちでした。それで他の人々が同情して、苦情を申し立てたのです。それは一面では良いことです。しかし、もしもそれが使徒たちに対しての批判であったなら教会は動揺したでしょう。苦情というのは批判にもなりかねないものです。

リーダーである使徒たちはこれを簡単な組織によって解決しました。組織は大切です。またその組織は霊的なことを優先するための組織でもありません。この点が大切です。教会のリーダーたちは「祈りとみことば」の奉仕、すなわち神様と交わる祈り、人々と交わるみことばの分かち合いが基本なのです。

食事のために選ばれた人々も事務能力よりも信仰が優先されました。これは教会の働き人の原点です。教会で奉仕する私たちは「御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人」であることを、自ら求めてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

